

【STEP①】 青森県の調書記入の勉強法

【STEP②】 青森県個人面接の評価の観点と勉強法

【STEP③】 青森県集団討論の評価の観点と勉強法

【STEP④】 青森県と国の方針・施策の勉強法

青森県の人物試験（個人面接・集団討論）についてこれからの具体的な勉強法をアドバイスします。

【STEP①】青森県の調書記入の勉強法

①人物試験対策として、まず取り組むべきことは『自己分析』である。

ただ、自己分析は視点が多岐にわたるため、どこから手をつければよいのか分かりにくいため、実際に『**青森県の調書**』を書いてみることをお勧めする。

この調書には、以下の5つの項目があり、書式に沿って回答していくことで自分の考えや強みを具体的に見つめ直せる。

結果として、青森県の面接で聞かれる内容に合った自己分析ができる。

①教員を志望する動機

②青森県を志望する理由

③自分の強みについての自己PR

④小学校以降に経験した部活動・サークル活動・ボランティア活動等について

⑤特技・資格

すぐに書き始めるのではなく、まずは「**面接ノート**」に思いついたことを上記のカテゴリー別に書き出し、随時追記していく。1週間～2週間継続した後、その中から書く内容を整理・精査してする。書き出せない項目や客観的に見てアピールが弱いと感じる部分があれば、具体的なエピソードや経験を振り返る。

さらに、**青森県の求める教師像に沿ったものかを青森県の選考方針で確認**してブラッシュアップする。

③調書の各項目の記入の方向性

①教員を志望する動機

青森県の調書には、「受験する校種の理由も書きなさい」とあるため、まずは、それぞれの校種における児童生徒の発達段階を心理学的視点から整理し、なぜその年代の児童生徒と関わりたいのか、どのように関わりたいのかを経験談を交えて準備する。

【勉強法】

1.受験予定の年代の児童生徒の発達段階を勉強する

→(例)小学校受験の場合、教育心理学の観点から、エリクソンの心理社会的発達理論では学童期(6～11歳)を「様々な技能や知識を習得する時期」とし、ピアジェの認知発達理論では 具体的操作期(7～11歳)を「論理的な思考が可能になる時期」としている。これらの理論を勉強した上で、なぜその年代の児童生徒に関わりたいのかを考える。

【臨時採用講師】 現在勤務している学校で児童生徒と対話する際、年齢ごとの子どもの発達の特徴を意識し、理論と現場の実態の違いを理解する。また、同僚の先生にどのように関わるべきかについて実践的なアドバイスを聞き、実際にその対応を試しながら児童生徒の反応を観察し、対応法を考える。

【現役大学生】 教育実習で指導教員から児童生徒の特徴や関わり方について実践的なアドバイスを聞き、理論と照らし合わせながら自分の考えを深める。また、児童福祉施設や学童保育のスタッフなどのボランティアに参加し、実践経験を積む機会を作るのもよい。

②青森県を志望する理由

「生まれ育った青森が好きだから」

「地元に貢献したい」

「青森県の豊かな自然や温かい県民性に魅力を感じる」

「青森県の郷土愛に共感する」

などを理由に挙げる受験生が多い。

これらは一般的な理由ではあるが、それぞれに多様な視点からの展開が可能であるため、無理に突飛な主題を考える必要はなく、自分自身の経験や価値観と結びつけて、**具体的にどのような点に魅力を感じているのか、どのように貢献したいのかを掘り下げて考える。**

【勉強法】

- 1.青森県の文化・歴史・特色を調べ、「面接ノート」に書き出し、随時追記していく。その際、**青森県公式サイトの中の「私たちの青森県」**で青森県の歴史・文化・産業について掲載しているため、これを参考に、自分の体験に基づいて「好き」と感じるだけでなく、今まで知らなかった魅力も含めて再確認し、青森の好きなどところを具体的に説明できるように学びを深める。
- 2.自分で調べるだけでなく、「温かい県民性が感じられること」や「青森への郷土愛」など、サイトに載っていないことは、家族や知人に話を聞いたり、街を歩いたり、地域のイベントに参加して店員や参加者と対話したりすることで、青森県民の声を参考にできる。そうすることで、回答の幅が広がり、より深い理解にもつながる。

きっかけとして上記について記述した後、「青森県の○○の教育施策に関心がある」という理由を挙げる受験生も多く、青森県受験であれば必ず理解しておかなければならないものである。

ただ理解するだけでなく、**その施策のどのような点に、なぜ興味を持ったのか、その施策に携わることで児童生徒にどのように影響するのか**といった観点から考えると、説得力のある志望理由になる。

【勉強法】

1. まずは青森県教育委員会の基本方針や重点施策を学習する。**青森県公式サイトの中から次の3つの資料の中の「基本的なポイント」を学習する。**

- 青森県基本計画「青森新時代への架け橋」(2024年度～2028年度)
- 青森県教育施策の大綱「あおり未来教育ビジョンVer 1.0」(2024～2028年度)
- 青森県教育振興基本計画「アクションプラン」(2024～2028年度)

青森新時代への架け橋の中で子供に該当するページが10ページ、あおり未来教育ビジョンVer 1.0が23ページ、アクションプランが22ページとページ数が多いため、まずは自分で資料を精読し、自分の言葉でポイントをまとめる。

次に、教育の専門家や大学の教授からその方針の意図を学ぶ。

最後に教育実習の指導教員や現職の先生に重点施策は学校現場でどのように活用されているかなど意見を聞いてブラッシュアップする。